



「現場力」を
身につける。

教室からフィールドへ—

2026 大学院案内



東北大学公共政策大学院
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

「公」を真剣に 議論できる学び舎

東北大学
公共政策大学院院長

伏見 岳人



東北大学公共政策大学院は、昨年の2024年に、20周年を迎えました。2004年に、公共政策分野における高度専門職業人の養成を目的として、本大学院が発足してから、すでに20年もの時が経ったのです。その間に修了した多くの人々が、さまざまな公共政策の現場で日々活躍しています。

公共政策の現場で働くためには、どのような資質が求められるでしょうか。

まず、「公」とは何か、を根源的に考える能力が、全ての基礎になります。「公」のあり方は、時代によって変化し、これからも変わり続けます。それに伴って、「公」に対する社会的ニーズも、今日では非常に多様化しています。それらを的確に把握しつつ、より良い「公」の実現を目指して、共同体の一員としての役割を果たす心構えを、公共政策に従事する者は必ず備えていなければなりません。

その能力と姿勢を、具体的に鍛える場所こそが、ここ東北大学公共政策大学院です。

本大学院の最大の特徴は、「公共政策ワークショップ」に代表される体験型授業プログラムです。公共政策の現場で長年奮闘してきた実務家教員と、法学・政治学の最先端の研究に挑戦している研究者教員、それに多様なバックグラウンドを有する学生たちが協働して、現在進行形の政策課題に実践的に取り組んでいます。

たとえば、2024年度には、コロナ禍で傷ついた観光政策をポスト・コロナ時代にどうすればよいか、出生率低下が進む日本の家族政策はどうあるべきなのか、東南アジアなどの海外に拠点を有する特殊詐欺の問題にいかに対処すべきか、2011年の東日本大震災で原子力災害に見舞われた福島沿岸部の復興まちづくりをどのように進めるべきか、といったテーマが扱われました。

いずれも、我々の未来を占う重要な政策課題ばかりであり、そして簡単には答えの出ない難問ぞろいです。あらかじめ模範解答の載っている教科書や解説書は、全く存在していません。しかし、その解決策を探し求めるべく、一年間、さまざまな現場で働く人たちにインタビューを重ね、数多くの文献や資料を読み解き、時には夜遅くまで仲間たちと議論を重ね、どのチームも独自性のある解決策を提言するまでに至りました。

また、本大学院では、法学や政治学、経済学の専門知識を教える多彩な授業が実施され、政策分野に関する演習も数多く展開されています。それらを通じて、公共政策の企画立案に求められる専門性を養いつつ、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を錬成することを目標としています。

2024年9月に開催された「東北大学公共政策大学院20周年の集い」には、全国各地から、多くの修了生や元教員が駆けつけてくれました。そこで交わされた会話は、やはり「公」のあり方について、それぞれの公共政策の現場に引きつけて考えるものばかりでした。かつて本大学院において、「公」の未来について、真剣に議論した共通の経験は、どれだけ時を経ても色あせない大切な基礎力になっているようです。

本大学院の門をたたき、新たな伝統を共に作り上げてくれる皆様との出会いを、心よりお待ちしております。



Contents

院長あいさつ	02	就職・進路関係	21
3つの特長	03	入試関係情報	23
【特長1】 実践的なワークショップ	04		
2025年度 公共政策ワークショップI	06		
【特長2】 高度で多彩なカリキュラム	08		
教員紹介	10		
【特長3】 少人数制によるキャリア形成支援	12		
座談会 公共政策大学院で学び始めて	16		
さまざまなフィールドで活躍する修了生	19		

パンフレット内のQRコードのリンク先を参照頂ければ、
詳細な情報をご覧いただけます

「公共」のプロフェッショナルをめざして

3つの特長

特長
1

実践的なワークショップ

東北大学公共政策大学院の中核をなす「公共政策ワークショップ」では、現場を幅広く体験・観察し、現場の声を踏まえて、具体的な政策提言をつくりあげていきます。

特長
2

高度で多彩なカリキュラム

法学、政治学系の科目にとどまらず、経済学、さまざまな政策分野に関する演習など、高度で多彩なカリキュラムを提供しています。

特長
3

少人数制によるキャリア形成支援

研究者教員、実務家教員が受け持ちの学生に対して、学習、進路など、きめ細かく相談・指導に当たります。

2年間で修了

標準的な修了年限は2年間ですが、

- 実務経験を有し、特に優秀な成績を修めた学生は、1年間での修了も可能。
- 社会人学生で、仕事との両立など一定の要件に該当する場合には、「長期履修学生」として、最長で4年間までの在学が可能。

→ 修了者には「公共法政策修士(専門職)」の学位を授与

特長
1

実践的な
ワークショップ

公共政策ワークショップ

—— 東北大学公共政策大学院の「真髄」

POINT

「公共政策ワークショップ」は、東北大学公共政策大学院の「代名詞」とも言える中核的な演習科目です。政策は、理論的側面からの精緻な組み立てが必要ですが、同時に現実の社会で有効に作用するものでなければなりません。「現場重視」は、我々が最も大切にしている教育理念の1つです。



公共政策ワークショップⅠ(1年次必修)、ⅡA・ⅡB(2年次必修)

1年次の「公共政策ワークショップⅠ」(通年12単位)では、中央省庁、地方自治体などの協力を得ながら、それらの機関が直面する政策課題に対して「政策提言」をまとめていきます。例年概ね4つのプロジェクトが設定され、それぞれ7、8名程度の学生が所属します。プロジェクト運営は「学生主体」とし、実社会と同様、各学生が役割、責任、主体性を持ちながら、チームとして行動し、成果を出すことが求められます。実務家教員・研究者教員の双方が指導に当たり、「机上の空論」にならないよう、行政機関等への現地調査を繰り返しながら検討を深め、提言内容をまとめていきます。

7月と12月の2回開催される報告会は、文書作成能力、プレゼンテーション能力に加え、真摯で白熱した質疑応答を通じて応答、説明の能力を磨く格好の機会となります。

また、2年次の「公共政策ワークショップⅡA・ⅡB」(計8単位)は、東北大学公共政策大学院での「総決算」となります。各学生が自ら研究テーマを設定し、教員の指導を受けながら個人で研究を進め、成果を「リサーチ・ペーパー」としてまとめます。現地調査の重視や政策提言を内容とする点は、「公共政策ワークショップⅠ」と同様です。



公共政策ワークショップ I の進め方

1

基礎知識の習得

出身学部の違いなど、学生のバックグラウンドは多様。
まずは、調査研究の基礎となる専門知識を習得します。

2

現地調査の開始、課題の発見と整理 調査研究の方向性を検討

机上の検討だけでなく、実際に現地に赴き、関係者の生の声を
聴くことで、政策の現状や課題をリアルに捉えます。



3

報告会 I (7月下旬)

プロジェクトの進捗状況と今後の進め方についての報告会。
学生同士、教員との質疑がブラッシュアップのヒントになります。



4

政策提言に向けた調査研究の深化 提言内容の具体化・「ツメ」の作業

引き続き、現地ヒアリングを繰り返しながら、
リアリティのある政策提言を追求していきます。



5

報告会 II (12月下旬)

公共政策ワークショップ I 最大の「やま場」。提言先等の方からも
コメントをいただき、提言のクオリティに磨きをかけます。



6

最終報告書の完成・ 提言先への説明・送付



在学生
から

問い尽くす

埼玉県出身
慶應義塾大学法学部卒業 **丸野 泉紀** (2024年度入学)

公共政策ワークショップIでは、一朝一夕では解決できない複雑な政策課題を扱います。よって、実務家教員と研究者教員の支えのもと、学生同士の多角的な知識を活用しながら活発に議論を交わし、関係者にヒアリング調査を行い、試行錯誤を繰り返して現状や課題を問い尽くすことが重要です。問い尽くした先にある課題解決のヒントに仲間とともに辿り着いた時の喜びは本大学院でしか味わえない経験です。



2025年度 公共政策ワークショップ I

「公共政策ワークショップ I」は、例年、概ね4つのプロジェクトから構成され、1年次の学生はそのいずれかに所属します。研究テーマは毎年度設定されますが、これまで、東日本大震災からの復興、農業振興、地域活性化、環境・エネルギー、外交など多岐にわたるプロジェクトに挑んできました。

ここでは、本年度まさに進行中のプロジェクトについて紹介します。

過去のワークショップのプロジェクトのテーマは、東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。



プロジェクト A 東京圏への一極集中の是正に向けて 宮城県と仙台市ができることは何か？

地域発の視点から、内政上の長年の一大テーマに取り組もう



主担当

教授 原田 賢一郎

1993年自治省(当時)入省。
環境庁(当時)、総務省、内閣府、日本郵便などで勤務する一方、群馬県、千葉県で勤務したほか、三重県菰野町で副町長、宮崎市で副市長を歴任。また、北海道大学、関西学院大学で実務家教員も経験。
2024年8月から本学で二度目の勤務。

東京圏への人口の過度の集中を是正することは、人口の減少に歯止めをかけることとともに、地方創生における大きな目的として、2014年に制定・施行された「まち・ひと・しごと創生法」に掲げられ、国を挙げてそのための取組がこの10年間進められてきました。

しかしながら、このような東京圏への一極集中については、コロナ禍の時期には一時的に減速の動きがみられたものの、感染症が収束し経済社会の正常化が進む中で、人口移動の状況が再びコロナ禍前の姿に戻りつつあるなど、その大きな流れを変えるには至っていません。

そこで、このプロジェクトでは、国の政策文書などにおける言説の妥当性も検証しながら、東京圏への一極集中の是正について、地域発の視点から実効性ある具体的政策を提言するため、本大学院が立地している宮城県と仙台市をフィールドにして、札幌市・広島市・福岡市などの地方中核中核都市と仙台市との比較や、それらの都市を抱える道県と宮城県との比較も交えた調査研究を行っています。



プロジェクト B 地域資源を活用した 魅力ある農山漁村づくりに関する研究

地域の魅力を見つめ直し、新たな価値を創出しよう！



主担当

教授 川野 豊

1992年農林水産省入省。
農林水産省では6次産業化、バイオマス・再生可能エネルギー政策等に従事。
財務省、経済産業省、在カナダ日本国大使館勤務を経験。
国土交通省不動産・建設経済局次長を経て2024年8月より現職。

我が国において人口減少や少子高齢化が進行する中、農山漁村では担い手不足、耕作放棄地の増加、集落機能の低下など様々な課題が生じています。農山漁村は食料を供給するだけでなく、国土の保全や水源の涵養、生物多様性の保全、文化の伝承など多面的な役割を担っており、次世代に継承していく必要があります。このため政府は、農林水産物、地域の文化、歴史、森林、景観などの農山漁村の有する多様な地域資源を活用し、付加価値の創出により所得と雇用機会の確保を図る取組や、地域コミュニティの維持、関係人口の増加に向けた取組を進めています。

プロジェクトBでは、地域振興政策の現状や国内外の事例を研究しつつ、行政機関へのヒアリングや農山漁村へのフィールド調査を行っています。把握した現場の課題に向き合い、様々な観点から解決策を検討し、持続可能な地域の実現に貢献できる政策提言を目指して取り組んでいます。



国内外の知見に学び、誰もが自分らしく活躍できる未来を考える



主担当

教授 度山 徹

1988年厚生省(当時)入省。年金制度改革を3度担当したほか、子ども・子育て支援、生活困窮者自立支援、高齢者介護、社会保障・税一体改革等に従事。環境庁(当時)、内閣府、山口県への出向経験あり。2023年9月より現職。社会福祉士。

世界経済フォーラムが毎年ジェンダー・ギャップ指数を発表していますが、2024年では、わが国は世界146か国中118位となっています。OECD諸国間で比較してみても、男女の賃金差は平均の倍近くあり、女性の議員や閣僚の割合は最低レベル、無償労働時間の男女比は最大レベルと、様々なデータがわが国のジェンダー・ギャップの大きさを示していますが、わが国のジェンダー平等に向けた歩みは芳しくないのが現状です。



その一方で、近年、国際的に最低レベルで低迷する出生率、地方創生の掛け声とはうらはらに加速する都市圏への人口流出、労働力不足やイノベーションの欠如による経済成長の低迷など、わが国がなかなか克服できない問題の背後に、大きなジェンダー・ギャップが影響しているのではないかと指摘されています。

これからの時代を生きる世代として、男性も女性も、これまでの社会経済が暗黙の前提としてきたことに縛られず、誰もが自分らしく活躍できる未来に向けて、国内の実地調査に加え、海外調査や外国の文献にも学びながら、政策提言を目指します。

ローカルSDGsを見据えた自立分散型の地域のあり方に迫る!



主担当

教授 永島 徹也

1992年環境庁(当時)入庁。気候変動、廃棄物・リサイクル、自然環境保全、水保病対策など多岐にわたる業務に従事。中間貯蔵施設担当参事官、環境影響評価課長、大臣官房総務課長、(株)脱炭素化支援機構役員などを経て、2024年9月から現職。

2024年、世界及び日本の平均気温は2年連続で最高値を更新しました。我が国は本年2月に新たな地球温暖化対策計画及びエネルギー基本計画を決定し、2050年カーボンニュートラルに向けた道筋とともに、再生可能エネルギーの主力電源化を徹底し、2040年導入量を4~5割程度などとする見通しを示したところです。



また、自然分野ではネイチャーポジティブや30by30世界目標の下で、生物多様性の保全と経済社会活動を一体的に進める取組が活発化しています。

他方で地域に目を転じれば、再エネを抑制する条例の制定が進み、再エネが「迷惑施設」として認識され、森林を始めとする豊かな自然資源も多くが放置されたままです。

東北は、再エネのポテンシャルが高く、豊かな自然に恵まれた地域です。地域に受け入れられる再エネ、地域の糧となる自然資源の活用とはどんなものか。私たちは地の利を活かして、現場からその可能性を探り、豊かな地域づくりにつながる政策提言を目指します。

在学生から

公共政策の思索場

大阪府出身 関西学院大学法学部卒業 水田 結貴 (2024年度入学)

本学の公共政策ワークショップIでは、特殊詐欺対策に関する政策研究に取り組みました。現場について理解を深めるため、日本やタイで関係機関へのヒアリングを実施しました。多様な関係者の意見を踏まえ、先生方のご指導のもと、学生同士で議論を重ねながら政策を提言する過程は、大変でありながらも楽しく、学びの多い貴重な経験となりました。公共政策について真剣に思考を深められる環境が、本学にはあります。公共政策に真摯に向き合いたい方に、ぜひ入学をおすすめします。



特長
2

高度で多彩なカリキュラム

実践的なアプローチを裏打ちする 確かな理論の習得

POINT

「現場重視」と両輪となるのが公共政策に関する「確かな理論の習得」です。理論的な裏付けのない単なるアイデアの寄せ集めでは「政策」とは呼べません。このため、法学、政治学、経済学など多角的なアプローチを身に付けるための履修科目を用意しています。

カリキュラム

東北大学公共政策大学院のカリキュラムは、「必須科目」、「基幹科目」、「展開科目」より構成されています。修了には、必須科目・基幹科目を含めて48単位以上の修得が必要です。



必須科目

「必須科目」は、「公共政策ワークショップI (12単位)」及び「公共政策ワークショップIIA (2単位)」「公共政策ワークショップIIB (6単位)」並びに「政策調査と論文作成の基礎 (2単位)」です。

このうち「政策調査と論文作成の基礎」では、公共政策大学院の学修と研究に必要な調査及び論文作成のための基礎的な技法を習得します。論理的議論の組み立て方や論文のフォーマット、効果的なプレゼンテーションの実践、政策情報の収集法、統計データの作成と解釈、法的枠組みを把握するための方法、調査の成果を報告書や論文としてアウトプットするための方法などを学びます。

すべての学生が円滑に履修を進められるよう、法学部出身の学生のみならず、理科系を含めた他学部出身の学生にも十分に配慮した教育を行っています。





基幹科目

学生は1年次より、「必須科目」とは別に、「基幹科目」の諸科目を履修することが求められます。「基幹科目」は法学、政治学、経済学などの分野からバランスよく構成され、このうち18単位が選択必修となります。

「基幹科目」に配当されている授業は可能な限り学際的であることが目指され、複数の法領域・政策領域に関わる問題を多角的な学問領域から分析するように配慮されて

います。科目によっては、研究者教員・実務家教員との連携、学外の実務家による講演なども交えて行われます。

理論と実務の双方の観点から公共政策の基礎的・体系的な知識を学習する授業、公共性についての理解を深め、現象の背後に存在する理念的・価値的な問題についての洞察力を涵養することを目的とした公共哲学に関する授業など、多彩な授業が開講されています。

展開科目

「必須科目」及び「基幹科目」の履修と並行して、学生は必要に応じて、より高度な社会科学の専門知識を習得し、または理系の諸学を含めたより広範な領域にわたる政策学について学びます。なお、「関連科目」として会計大学院の授業を履修することもできます。

東北大学公共政策大学院科目一覧（令和7年度実績）

1 必須科目

- 公共政策ワークショップI
・プロジェクトA・プロジェクトB
・プロジェクトC・プロジェクトD
- 公共政策ワークショップII A・B
- 政策調査と論文作成の基礎

2 基幹科目

- 公共政策基礎理論／公共政策特論／実務政策学
- 行政の法と政策／租税政策論／公共哲学／防災法
- グローバル・ガバナンス論／地方自治法
- 経済学理論／財政学

3 展開科目

- 法と経済学／環境法／実務労働法／社会保障法／経済法／国際関係論演習
- 西洋政治思想史演習／日本政治外交史演習／アジア政治経済論演習／中国政治演習
- 環境・コミュニケーション演習／経済産業政策特論／比較公共政策／震災復興における政治・行政
- 行政学演習／政策評価論／政策分析の手法／経済と社会／現代政治分析演習／開発協力論演習
- 多様性社会と法演習／国際法発展／租税法基礎／ヨーロッパ政治史演習／援助と開発演習
- Politics of East Asia

※上記科目は、令和7年度に開講している科目です。今後変更されることがあります。

在学生
から

理論と実務を多角的な視点で学ぶ

愛媛県出身
新潟大学法学部卒業 三森 駿（2024年度入学）

本大学院では、研究者教員による公共政策学の理論的な講義に加え、実務家教員（行政官）による行政実務に即した内容の講義が開講されており、理論と実務の両面から、公共政策学に関する体系的な知識を得ることができます。また、理系学部の出身者や社会人学生など、多様なバックグラウンドを持つ学生が在学しており、異なる視点から活発な議論が日々展開されています。このように、本大学院では、理論と実務の両面から公共政策学を学ぶことができるだけでなく、多様な学生との交流を通して、多角的な視点から物事を考察する力を養うことができる環境が整っています。



教員紹介

国際法 理事・副学長・教授 植木 俊哉

1983年東京大学法学部卒業。東北大学法学部助教授を経て、1999年より東北大学法学部教授。2004年から2006年まで東北大学大学院法学研究科長・法学部長、2006年から現在まで東北大学理事・副学長・大学院法学研究科教授。専門分野は、国際法・国際組織法。



充実した教育内容の大学院

東北大学の公共政策大学院は、2004年に国立の公共政策大学院として最も早く開設され、少人数の学生に対する密度の濃い充実した教育内容を特長としています。皆さんは、「公共政策ワークショップ」等を通じて、単なる知識や技術にとどまらない政策立案過程でのさまざまな課題に自ら挑戦し、問題の解決に向けて取り組む専門的能力を身につけていくことができます。「公」の課題に挑戦する意欲に富んだ皆さんの入学を心からお待ちしております。

中国近代政治史、
現代中国政治

教授 阿南 友亮

1972年東京生まれ、慶應義塾大学法学部卒。慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学。博士(法学)。2011年に東北大学赴任、2014年より現職。専攻は政治学(中国政治、日中関係)。



地に足のついた解決策を編み出そう

日本が抱える行政課題は多岐にわたります。公共政策大学院での学びの大きな特徴は、それらの課題の中身について分析することに留まらず、具体的な解決策についてじっくり考察し、提案することです。ぜひ本学で仲間たちと一緒に日本が必要とする解決策についてトコトン考え、議論してください。

社会安全政策

教授 宇田川 尚子

京都大学法学部卒業、京都大学公共政策大学院修了、コロンビア大学国際公共政策大学院修了。2008年警察庁入庁後、主に、国際関係業務に従事。都道府県警察勤務や農林水産省への出向経験あり。2023年より現職。



挑戦と選択：未来のリーダーへ

公共政策は、社会課題に正面から向き合い、社会をより良くするために「選択」を重ねていく挑戦的なフィールドです。本学では、最先端の理論を学ぶことができるだけでなく、学内外の多様な人々と対話を重ねる中で培われるコミュニケーション能力、最後まで諦めない粘り強さ、共に課題に取り組む過程で育まれる協調性を大切に、実務と理論を行き来しながら政策形成に必要な実践力を養います。どう「選択」するか、一緒に考え抜き、実行する学びの場に飛び込んでみませんか。

行政法

教授 大江 裕幸

山形県出身。東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。信州大学講師、准教授を経て2021年4月より現職。専攻は行政法。



公共政策実現のツールとしての行政法

皆さんは、行政法にどのようなイメージをお持ちでしょうか。公務員試験のために懸命に暗記する(した)法律科目の一つといったところでしょうか。行政法は、法解釈論としての側面だけではなく、制度設計論としての側面を有しており、公共政策を考える場合には後者の側面が特に重要になります。法的な可能性と限界を見極めつつ、公共政策実現のツールとして行政法を使いこなす姿勢と能力を修得されることを期待しています。

比較政治学、政治経済学、
国際ボランティア論

教授 岡部 恭宜

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。東京大学社会科学研究所、JICA研究所を経て2015年4月より現職。専攻は比較政治学、国際ボランティア論。



多様なレンズから何が見えますか

公共政策を考察するための視点は様々です。実務はもちろんのこと、政治学、法学、経済学、社会学といった複数の学問から焦点を当てることも必要ですし、グローバル化の時代、国際的な視点も欠かせません。研究対象についても、中央や地方の政府の政策のほか、企業、NPO、市民団体といった非国家アクターの戦略や行動の目を向けることが求められます。本学はこうした多様なレンズを用意しています。是非覗いてみて下さい。

政治思想史

教授 鹿子生 浩輝

1971年福岡県生まれ。西南学院大学法学部卒、九州大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程修了。博士(法学)。2017年4月より現職。専門分野は政治思想史。



実践的判断のための哲学的探求

私は主に「公共哲学」という科目を担当しています。この科目は、公共政策を提言する際の哲学的基盤に関心を寄せる分野です。実践的な政策は、そもそどのような政治的価値に基づいているのか、その価値判断それ自体が適切なものか。こうした根源的な問題の自覚がなければ、具体的な提言も無益となるかもしれません。公共哲学は、こうした理論的・哲学的側面に正面からアプローチする学問であり、これこそ大学院で探求されるべき知的営為の一つだと思います。

労働法

教授 桑村 裕美子

鳥取県出身。東京大学法学部卒業。同大学院法学政治学研究科助手、東北大学大学院法学研究科准教授を経て、2021年8月より現職。博士(法学)。



困難な問題にどう向き合うか

社会の問題は複雑で、簡単に「解決策」を導き出すことはできません。しかし、現在の政策でうまくいっていないならば、何かできることがあるはずですが。本大学院の様々な授業を受講しながら、1年単位の長期にわたり困難な問題に向き合い、仲間とともに一つの結論を導くという経験をしてみませんか。単なる思いつきではなく、しっかりとした制度理解に基づく政策立案の手法・プロセスを学ぶことができるのが、本公共政策大学院です。

国際関係論

教授 戸澤 英典

1966年岩手県生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。EU代表部専門調査員、大阪大学法学部講師・助教授を経て2005年4月に東北大学赴任。2014年から2016年まで公共政策大学院長。2022年より法学研究科長・法学部長。



手づくりで進化・発展する大学院

日本では初めての試みであった「公共政策ワークショップ」を中心とする本大学院は、教員・学生一体となって手づくりで練り上げ、今なお自らを進化・発展させていると自負しています。少子高齢化や格差社会の進行による諸問題に直面し、さらに日本をとりまく国際状況はますます険しさを増していますが、この難しい時期だからこそ、望ましい将来像を構想し具体的な政策・施策に練り上げ実現していく、そんな人材を数多く輩出すべく力を尽くしたいと思っています。

行政学

教授 西岡 晋

1972年東京都生まれ。早稲田大学社会科学部卒業。早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程単位取得退学。金沢大学法学部准教授、同教授等を経て、2015年10月より現職。専攻は政治学・行政学。



公共政策を通じて理想の社会を考える

公共政策とは、理想と現実のあいだのギャップであるところの「問題」を解決して、理想の社会に近づくためのさまざまな取組のことを指します。社会には解決が求められている問題が溢れています。にもかかわらず、なぜ問題は放置されたままなのでしょう。問題を解決するためにはどうすれば良いのでしょうか。そもそも、「理想の社会」とはどのような社会なのでしょう。東北大学公共政策大学院と一緒に考えてみませんか。

国際法

教授 西本 健太郎

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学
研究科博士課程修了。博士(法学)。2019年8月より
現職。専門分野は国際法・海洋法。



変化する時代の中で本質を見極めたい

「これまで通用してきた方法が、これから通用する
とは限らない。」少子高齢化による社会の変化や、経済
のグローバル化による産業構造の変化といった様々な
変化の中で、そうした局面は今後増えていくことでしょ
う。変化する時代の中では、過去のやり方にとらわれず、
表面的な新しさにも惑わされず、課題の本質を的確に
見極めることが一層重要になります。東北大学公共政
策大学院では一つの課題と徹底的に向き合うための
場を用意して、皆さんをお待ちしています。

復興・まちづくり

教授 御手洗 潤

博士(工学)。1992年建設省入省。在シンガポール日本大使館、
内閣府(防災)、国土交通省都市計画課開発企画調査室長、
京都大学経営管理大学院特定教授、
内閣官房オリパラ事務局参事官、復興庁原子力災害復興班
参事官等を経て、2021年より現職。



自分事化と客観化

現場を歩いていると「国や自治体は理屈だけで現場がわ
かってない」とよく言われます。政策の基礎は、現場の課題を
自分事化することです。しかし、ある政策を実施・変更すると、
多くの場合メリットとデメリットがあり、デメリットを受ける
(多くの場合その現場とは違う)人々を考えると、多様な意見
の聴取や学術理論・分析、過去の蓄積等の知見を用い、将来
を客観的・冷静に見通す必要があります。

ともに歩む仲間や教員と、熱いハートとクールな頭で、複雑
な社会を少しでも先に進める現実的な政策を提案しましょう。

防災政策、事業継続計画
(国土交通省出身)
(本務：災害科学国際研究所)

特任教授(研究)(兼務) 丸谷 浩明

1983年東京大学経済学部卒業。建設省入省後、
内閣府防災担当企画官、京大経済研究所教授、
内閣府防災担当参事官等を経て、
2013年10月より災害科学国際研究所教授、
2025年4月より現職。経済学博士。



公共政策としての防災を学ぶ

2011年に発生した東日本大震災の被災地として、
仙台で2015年に「国連防災世界会議」が開催され、
「仙台防災枠組」が採択されて2030年までの世界の
防災の目標となっています。そして、2024年の能登半
島地震をきっかけに、防災力の抜本的な向上が日本政
府の重要施策となり、様々な制度や仕組みの改善が行
われています。この大きな流れの中で、公共政策として
の防災を共に学びましょう。

公共政策大学院長

教授 伏見 岳人 (日本政治外交史) …………… 2ページ

教授 原田 賢一郎 (地方自治、地域政策) …… 6ページ

教授 川野 豊 (農林水産政策) …………… 6ページ

教授 度山 徹 (社会保障政策) …………… 7ページ

教授 永島 徹也 (環境政策) …………… 7ページ

現代政治分析

准教授 金子 智樹

東京大学法学部卒業、
東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。
博士(法学)。2021年10月より現職。
専門分野は現代政治分析(日本政治・政治コミュニケーション)。



公共政策をいかに分析するか

日本が抱える政策的な課題は膨大かつ切実です。こ
れから社会で活躍する皆さんは、「負担の分配」という
困難な現実と、当事者と直面せざるを得ません。本
大学院で日本の公共政策に向き合うことは、広い意味
での社会貢献の第一歩となるでしょう。私の専門は現
代政治分析ですが、データ分析を中心に、公共政策を
実証分析するためのアプローチを提供します。キャンパ
スでお会いするのを楽しみにしています。

行政法

准教授 高畑 柊子

山形県出身。東北大学法学部卒業、
東北大学公共政策大学院修了、東北大学大学院
法学研究科博士課程後期3年の課程修了。博士(法学)。
成蹊大学法学部専任講師等を経て2024年4月より現職。



理論と実務を架橋する

社会には複雑で多様な問題が山積していますが、求
められるのは思いつきレベルの“アイデア”ではなく、
地に足の着いた政策です。そのためには、課題を“自分
事”として捉え、当事者の抱える切実な声に耳を傾け、
ありうる解決策を理論によって彫琢するプロセスが必要
です。心強い仲間と教師陣とともに、“本気で”公共政
策を考えたい方、お待ちしております。

租税法

准教授 藤原 健太郎

長野県出身。東京大学法学部卒業、
東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻修了。
東京大学大学院法学政治学研究科助教、同講師を経て
2021年4月より現職。



確かな方法論によって社会に切り込む

首尾一貫した公共政策を実現するためには、それを
支える方法論を学ぶことが不可欠です。本学公共政策
大学院では、ワークショップという実践を重んじる授業
に加えて、深い理論を学ぶ授業が提供されています。普
段は役に立たないようにも思える理論も、判断に迷う
場面で意思決定を求められたときに導きの星になっ
てくれます。我々は、皆さんが緻密な理論的思考を武器に
した公共政策の担い手になることをサポートします。

行政法

准教授 堀澤 明生

東京大学法学部第三類(政治コース)卒業、
神戸大学大学院法学研究科
実務法律専攻(法科大学院)修了。
北九州市立大学法学部准教授等を経て2023年より現職。



確かな法解釈論に基づく法政策論を

政策担当者にとって、法は、人々を統御するための
ツールであり、必要に応じて新しく作ったり、改良した
りする必要があります。しかしその際にも、既存のもの
で何ができるのかや、新しく作られた法がどのように実
際には解釈・運用されていくことになるのかを考えた上
でこそ、よい法を作ることができると思います。

美しい仙台の街で、充実したスタッフや仲間と共に
学びましょう。

行政法

准教授 諸岡 慧人

東京大学大学院法学政治学研究科
法曹養成専攻修了。東京大学大学院法学政治学
研究科助教を経て、2020年4月より現職。



杜の都で地域に向き合い考える

みなさんは、本大学院の目玉である公共政策ワー
クショップにおいて、経験を積んだ実務家教員の指導の
もと豊かな実践の機会を与えられます。私は、研究者
教員の一人として、理論的背景を学ぶお手伝いをしま
す。課題が生じている、そして人が暮らしている地域に
徹底的に向き合って、大いに悩み楽しんでください。こ
の杜の都で、そして東北地方で、豊かな現実にも挑みた
いみなさんを歓迎します。

特長
3

少人数制による キャリア形成支援



教員との近い距離感、 実務家教員も含めたキャリア形成支援

POINT

公共政策ワークショップⅠ・Ⅱの指導教員が少人数の学生を受け持ち、学修面での指導だけでなく、社会に送り出すという視点からもきめ細かくサポートします。

明日の日本の担い手を送り出すために

東北大学公共政策大学院では、1学年30名の学生に対し、公共政策ワークショップ、基幹科目などの担当教員だけでも10名以上の教員がインテンシヴに担当し、きめ細かな教育・指導を実施しています。また、学生一人一人にアドバイザー教員がつき、履修相談・進路相談を定期的に行っています。さらに、国家公務員総合職を志望する学生につい

ては、希望者を対象に官庁訪問を想定した面接指導を実施するなど、中央省庁出身の実務家教員の強みを活かした取組も行っています。

我々は、学修面だけでなく、修了後の進路に関しても、学生のよき相談相手、よき理解者、かつ、よき指導者でありたいと考え、教室の内外を問わず、日々学生と接しています。

在学生
から

理想のキャリアに近づける環境

宮城県出身
東北大学法学部卒業 新妻 憲太郎 (2024年度入学)

私は1年次に内定をいただき、今年度に総務省の入省と公共2年目を同時に迎えました。まだまだ研修中の身ですが、ワークショップでも徹底的に取り組んだ正確なりサーチ・多角的な議論・説得的な説明などが実際の政策課題に対する職務で行われていることを肌で感じており、院生として社会に出たことで、より本学のプログラムの意義を実感する毎日です。2年間在学する学生のみならず、社会人で入学する学生や1年で就職する学生への理解やサポートも充実しています。自分らしいキャリア形成とスキルアップをぜひ本学で実現しましょう！



働きながら学び直しを 希望される社会人の方に



東北大学公共政策大学院には、地方公共団体や民間企業等に勤務しながら、政策立案や企画能力の向上、知識のブラッシュアップ等のために学んでいる社会人学生が多く在籍しています。

仕事と学業の両立を実現し、日々、成長を続けている社会人学生の皆さんを紹介します。



地方公務員

中濱 早苗 福島県出身 豊橋技術科学大学工学部（2024年度入学）



東北大公共政策大学院を選んだ理由

福島県庁の土木部職員として勤務しています。地域の発展と未来を考える時、公共事業を担う公務員として、「地域と時代に合った政策をイメージできるかどうか」がとても重要だと思っています。これまでの業務で培ってきた技術者としての視点に、法的な視点も加えた多角的な視点からの公共政策立案や政策効果を分析できる政策形成能力を身につけるため、これら一連の学びがしっかりとできる東北大学公共政策大学院への進学を希望しました。

現在の学習内容

1年次の必修科目「公共政策ワークショップⅠ」では、「福島原子力災害被災地の復興まちづくり研究」をテーマに、「復興とは何か」を教授や学生達と議論し、被災地への現地調査やヒアリングを幾度も重ねて課題を抽出し、解決に向けた政策提言を行いました。地域課題を自分事として捉え、政策提言を行うために試行錯誤した日々は、現在の自分の業務に直結する学びも多く、とても勉強になりました。授業は法解釈や政策の成り立ち、政策評価のほか、公共哲学や行政学等についても学ぶことができます。少人数クラスでの授業もあり、ゼミ形式で教授や学生同士で議論ができることも魅力の一つです。

仕事と学びと子育てについて

2年次のリサーチペーパーの執筆に時間をかけたかったため、1年次で集中的に履修を行いました。修学のための部分休業制度と、朝7時から勤務する時差出勤制度を活用することで、働きながら通学することができました。1年次は、朝4時半に起床して子供たちの朝ご飯やお弁当を作り6時前に自宅を出発して仕事へ。夜帰宅後は、子供の学校の話聞きながら職場のメールチェックと授業の予習復習を軽く行い、翌日の夕飯を作ってから就寝するという生活でした。寝不足や体力的に辛い日もありましたが、眠さや疲れより学べることへの喜びの方が大きく、あっという間の一年でした。

今後の抱負

いつでも学べること、学ぶことの楽しさを多くの人に伝えたいです。大学院で学んだ事や出会った方との絆を大切にするとともに、公共事業を担う公務員として地域の声をしっかりと聞き、地域と時代に合った公共政策の立案をしていきたいと思っています。

1週間のスケジュール

2024年前期・後期(黄色…前期のみ/ピンク…後期のみ/オレンジ…通年)

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限			実務政策学J 自治体政策論	防災法		
3時限					実務政策学B 農林水産 政策実学II	
4時限		公共政策 ワークショップ I	実務政策学I 地方自治概論		実務政策学F 年金政策論	
5時限	政策調査と 論文作成の 基礎				公共政策 特論II	
6時限			実務政策学K 環境政策演習 ※隔週			

※その他、夏期集中で「政策評価論」「比較公共政策」を履修。講義のない時間帯は勤務。

2025年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限						
3時限						
4時限				実務政策学G 環境政策論		
5時限					公共政策 特論I	
6時限						

※その他、「公共政策ワークショップII」を履修。講義のない時間帯は勤務。



地方公務員

鳥羽 雪絵 福島県出身 福島大学行政政策学類卒業（2024年度入学）



東北大公共政策大学院を選んだ理由

私は現在、市役所の職員として働いております。組織として仕事をしているなかで、自身が、本当に市民の生活をよりよくすることに貢献できているのか、という疑問がわくと同時に、なにも行動を起こさないうまま仕事を続けることに不安をもっていました。その思いから、普段は関わるできない方々からの学びを得て、視野や興味関心分野を広げ、個人としてのスキルアップも目指したいと思い、当大学院への進学を決めました。

現在の学習内容

1年次はワークショップのほか、興味があり、通うことが可能な時間帯の授業を履修しました。ワークショップでは、「出生率低下の進む我が国の家族政策を考える」をテーマに研究に励みました。官公庁をはじめとして、子育てを支える民間団体や、先進的な取り組みをされている企業等へヒアリングを行いながら、メンバーと多くの時間を共有し、何度も議論を重ね、提言をまとめました。出生率低下という、様々な要因が複雑に絡み合って生じており、そう簡単には解決策が見つけれない課題に真正面から向き合い、メンバー全員で考えぬいた1年は、大変貴重な時間となりました。

仕事・家庭との両立について

1年次は、職場の理解を得て、就学部分休業と有給休暇を活用しながら、週3~4回ほど通学していました。フルタイムで働きながらの頻繁な通学は大変さを感じることもありましたが、しかし、ワークショップメンバーを中心とした同級生と顔を合わせる機会が増え、授業終了後に開催される自主ゼミにも参加できたので、大変さを上回る良い点がありました。

また、家庭において、夫に大学院への進学を希望していることについて話した時には、驚きと同時に、金銭的な負担と家庭への負担を懸念していました。実際に通学が始まると、忙しさにかまけて家庭へ貢献することがあまりできず、正直なところ、負担をかけてしまっていたと思います。そのなかでも、夫に協力してもらったおかげで、通学を続けられたので、大変感謝しています。

今後の抱負

今回ワークショップで研究をした出生率低下の課題は、あらゆる場面で、避けては通れない課題だと再認識しました。そのため、今後についても、テーマについて考え続けるとともに、次世代の育成にも力を入れていきたいです。また、これまで当大学院で学んだ知識やかけがえのない経験は、自分自身のこれからの人生の糧となることだと感じております。当大学院での学びをきっかけに、社会課題に対して広く関心を持ち続け、少しでも社会に貢献できるよう自己研鑽を重ねたいと思いました。

1週間のスケジュール

2024年前期・後期(黄色…前期のみ/ピンク…後期のみ/オレンジ…通年)

	月	火	水	木	金	土
1時限				政策過程の歴史分析		
2時限				防災法		
3時限		公共政策ワークショップ I		実務政策学A 農林水産実学I	実務政策学A 農林水産実学II	経済産業政策特論 I
4時限	政策調査と論文作成の基礎		実務政策学C まちづくり・地域の政策演習		実務政策学F 年金政策論	
5時限			実務政策学E 社会保障演習	実務政策学I 地方自治概論	公共政策特論II	
6時限						

※その他、集中講義で「環境・コミュニケーション演習」を履修。講義のない時間帯は勤務。

2025年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限					公共政策基礎理論	
3時限						
4時限			実務政策学F 自治体政策論			
5時限			実務政策学C 社会保障論			
6時限						

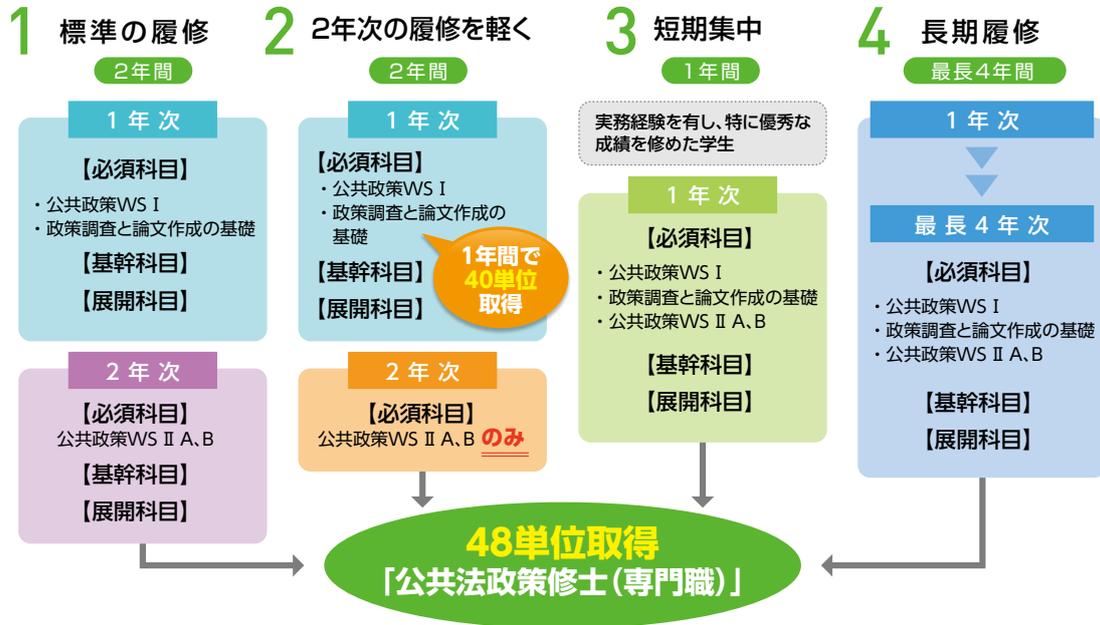
※その他、集中講義で「特別な支援を必要とする生徒に対する理解」「総合的な学習の時間及び特別活動の指導法」を履修。講義のない時間帯は勤務。

当大学院では、これまで、地方議会議員、国家公務員、地方公務員、民間企業社員、大学職員、NPO職員等として、働きながら又は休職をして、様々な社会人学生が学んでいます。

社会人学生の履修モデル



東北大学公共政策大学院では、学業と仕事を両立できるよう、社会人学生向けに複数の履修コースを用意しています。2年間で修了のほか、最短で1年、最長で4年での修了が可能です。



1 標準の履修 (2年間) 2年間で48単位を取得し修了します。

2 2年次の履修を軽く (2年間) 公共政策WS II 以外の40単位を1年次に集中的に取得します。2年次は、仕事の状況に応じて通学・メール等で担当教員の指導を受け、公共政策WS II の8単位を取得し修了します。

3 短期集中 (1年間) 修了に必要な48単位を1年間で取得し修了します。公共政策に関する3年以上の実務経験がある学生を対象にしたもので、優秀な成績を修めた場合に修了が認められます。

4 長期履修 (最長4年間) 履修年限を最長4年間まで設定できます。授業料の支払総額は、標準履修(2年間)の場合と同額に設定されています。

！ 地方公務員の方へ ～「自己啓発等休業制度」のご確認を～

地方公務員法には、条例に基づき職員が大学等課程の履修のために休業することができる「自己啓発等休業制度」の規定があります。休業期間中の給与は不支給ですが、学業に専念できます。条例が制定されている場合、一般的には、以下のような名称・内容になっています。

- ☑ 「職員の自己啓発等休業に関する条例」といった名称の条例
 - ☑ 大学院も履修先として規定
 - ☑ 休業期間は原則2年間
- 是非、ご所属先の条例の有無、内容についてご確認ください。

座談会

公共政策大学院で学び始めて

この座談会は、2025年5月19日、教員の呼びかけに応じた有志の1年生(M1)4名、2年生(M2)2名が東北大学公共政策大学院について語り合ったものです。

東北大学公共政策大学院を 選択・志望した理由

根岸:最初に東北大学公共政策大学院(以下「公共」)を志望した理由を教えてください。

大橋:政策に関する幅広い知識を身に付け、専門性の高い人材として自信を持って社会に出たほうが即戦力として活躍できると考えました。一方で就活を始めた段階では進路の方向性が定まっておらず、モラトリアム的な側面も否定できませんが。

伊藤:大学で経済学や心理学を学ぶうち、社会科学に興味を持つようになりました。大学院に進学してより幅広い知識を得たいと思い、公共ならワークショップがあり、実践的に政策立案の知識などが学べると考え、ここに来ました。

岡島:私は就職か進学かギリギリまで悩んだのですが、やはり実践的な学びをしてから働きたいと考え、実践と理論の両方が学べる公共を志望しました。

島田:私も実践的な学びという、将来絶対に役に立つ学びが得られると思ったこと、私は文学部出身なのですが、公共はいろいろな学部出身者に門戸を開いていることも特徴だと思い志望しました。入試でも法律や政治学の知識ではなく、自分が興味のある政策分野への考え方を評価していただけたのかなと思っています。

ワークショップ I の感想

根岸:公共の特徴であるワークショップについて、1ヶ月半やってみての感想は。

大橋:ワークショップAのテーマは「東京圏への一極集中の是正に向けて宮城県と仙台市ができることは何か?」。人口動態などの現状を分析し、そこから課題を抽出し、宮城県や仙台市の現在の取組が抱える問題点の解決策を政策提言します。最近は毎週自主ゼミを始め、中間報

告までのスケジュールも立ちました。人数も多く、それぞれに得意分野があるので、それを活かして乗り越えていければと考えています。

鈴木:今年は社会人が多くて、Aが3人、Bが2人、Cも2人、Dが3人です。社会人の方々と机を並べるのはどんな感じでしょうか?

大橋:社会人の方は自主ゼミに出るのが難しいので、情報の差が出ないよう共有する時間を設けています。うちはワークショップのテーマに直接関わってくる山形県と仙台市の職員の方がおり、その強みを活かしてくださっています。

根岸:担当の原田先生が最初の飲み会の時に「今年はビシバシいきたいと思う」とおっしゃっていたので、非常に楽しみです(笑)。

伊藤:ワークショップBは「地域資源を活用した魅力ある農山漁村づくりに関する研究」がテーマです。日本全体で地方では人口減少、一次産業では担い手不足などの難しい状況に置かれている中で、どうやって地方振興を進めていくかが主題です。そもそも「地域資源」とは何か、産業なのか、文化や風景、観光など、様々なものをまとめて地域資源とするのか、ターゲットは誰なのかなどを、入り口の部分から時間をかけてみんなで話し合っています。実務経験のある社会人の方々が率先してやってくださるので、僕たちもいろいろと吸収しながら進んでいます。

岡島:ワークショップCのテーマは「ジェンダー・ギャップに挑む」。ジェンダー・ギャップ指数は世界経済フォーラムが毎年発表する男女間の格差を示す指数で、日本は主要先進国(G7)の中では最下位です。「女性活躍」が国の政策課題として掲げられているわけですが、ではどうすれば女性が活躍できるのかを考えていくのが私たちの主な課題です。今は関係資料や論文を読んでいる段階ですが、女性もあらゆる分野に関わっているので、どの分野から攻めるか検討中です。社会人学生として隣の県議会議員が参加しているので、政治分野での女性の状況を教えていただき学びになっています。またCは国際ワークショップで、今年は韓国に行くことになっているので、現地でのヒアリングや比較も楽しみです。

鈴木:昨年はタイに行きましたが、これから準備が大変なので早めに動いたほうがいいですよ。楽しみながら頑張ってください。

島田:ワークショップDは「東北から再エネや自然との共生を通じた豊

■ 司会者

■ 参加者



根岸 夏希

群馬県出身
東洋大学出身
(2024年度ワークショップA所属)



鈴木 愛乃

岩手県出身
東北大学出身
(2024年度ワークショップC所属)



大橋 栄馬

宮城県出身
東北大学出身
(2025年度ワークショップA所属)



伊藤 晴

神奈川県出身
国際基督教大学出身
(2025年度ワークショップB所属)



岡島 由佳

東京都出身
津田塾大学出身
(2025年度ワークショップC所属)



島田 菜桜子

長野県出身
東北大学出身
(2025年度ワークショップD所属)

かな地域づくりを考える」がテーマです。日本は2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指しているわけですが、再生エネルギーの利用や導入があまり進んでいないのが現状です。また「第6の大量絶滅期」と言われるほど生物多様性が失われつつある中、それらを解決できるような地域づくりを考えていきます。ほかのワークショップ同様、前提となる「豊かな地域とは何か」から考えているところですが、ヒアリングも進んでおり、宮城県庁や環境省の東北地方環境事務所に行ってきました。明日は生ごみなどのバイオガス化と活用に関心している南三陸町を訪問予定です。



鈴木:現場に行って直接お話を聞けるのも、ワークショップの特徴ですね。

島田:関係資料や政府の計画は理想論的なところがあるので、現場に行くとは行政の立場からの苦労や課題を知ることができます。やはり政策立案する上は、現場の声や現状を知ることが本当に大事なのだと実感しています。

根岸:先生たちとの距離も近いですね。

島田:大学の時よりも近いと思います。お昼時間にワークショップ室に来てくださって一緒にご飯食べたりもします。先生方も学生と話すのが好きなんですね。

岡島:実務家の先生に省庁でどんな仕事をされていたかお聞きすると、何でも答えてくださるので、それもまた学びになっています。

ワークショップ I 以外の授業の印象

根岸:M1ではワークショップが目玉かと思いますが、ほかの授業はどうですか？

伊藤:ワークショップでお世話になっている先生以外の授業を取るのが面白いかなと思っています。「実務政策学」は全体的に面白いですよ。

岡島:「公共政策特論」もおススメです。外部の、それも現役の国家公務員をお呼びしてお話を聞く機会はなかなかないですし、この大学院の強みだと思っています。

大橋:ちょっと重たい授業ですが「政策調査と論文作成の基礎」は、あれを乗り越えれば達成感と成長を感じられるのかなと思っています。3分間の発表にあれほど真面目に取り組む機会はないですし、発表の仕方を先生やほかの学生から見られる機会もないので、ワークショップの中間報告はもちろん、就活にも活かしてきたいと思います。

伊藤:しかもみんなとてもやる気があるので、刺激ももらっています。

島田:グループで発表する課題もあるし、履修する授業がみんな被ることが多いので、ワークショップの垣根を越えて仲良くなれますね。私は文学部だったので、どの授業もこれまで学んだことがない内容で、キャッチアップしなければと感じるところもあります。でもどれも興味のある授業で、現場での経験のお話なども聞けて、とても楽しく学んでいます。

岡島:私も法学部出身ではありませんが、自分の意見や考えを根拠づけるものとして法律があると認識しているので、ワークショップのテーマに関わる法律や、興味・関心のある法律などから学んでいけたらと思っています。

大橋:僕は東北大法学部出身ですが、学部時代の授業よりわかりやす

いと感じています。様々な学部からの学生がいることを意識して、先生方もわかりやすく授業を組んでくれているのではないのでしょうか。うちのワークショップでは人口動態などを分析しているので、法律よりも統計など数字に強い人材に助けられています。

島田:様々なバックグラウンドを持つ学生が集っているからこそ、ワークショップでも様々な視点から考えることができている面白いですよね。

学生生活、仙台での暮らし

鈴木:この4月から仙台に来た人は、こちらの暮らしはいかがですか？

岡島:私は一人暮らしも初めてなのですが、過ごしやすいいし、必要なお店なども近くにあって便利ですね。

伊藤:同じく暮らしやすいなと感じています。気候も東京より涼しく、海鮮やごはんが美味しいなど(笑)。

岡島:確かに。初日に牛タンを食べに行きました(笑)。

島田:私は5年目になりますが、仙台はコンパクトにまとまっていて、街に行けば何でも揃うし、リフレッシュしたい時は山も海も近く、その都市と自然のバランスがいいと思います。

大橋:僕は生まれた時から住んでいる街ですが、就職してここを出ても、将来的に可能なら戻って来たいと思うくらい暮らしやすい街だと思っています。東京にも近いので、今後就活にも不便はないと考えています。

鈴木:公共のある片平キャンパスは、街の中心地にあるから便利です。川内キャンパスは近くに飲食店もなく、学食ですけど、24時間365日開いている自習室もあるので、学ぶ環境も整っています。

岡島:ワークショップ室も居心地がいいので、みんな無意識に集まってくる話込んでいます。

鈴木:いつまでもいられるので危ないですよ(笑)。

岡島:わかってきました。やばい、もうこんな時間って(笑)。

根岸:秋には芋煮会もあるので楽しみにしてください。芋煮は必修単位です(笑)。

鈴木:先生が張り切っていて、もう日付を押さえているらしいです。

伊藤:芋煮の芋って何芋ですか？

根岸:里芋。伊藤君は神奈川だから、やったことない？

鈴木:宮城芋煮と山形芋煮を作って、食べ比べをするんですよ。

大橋:子どもの頃からやっているけど、僕は宮城風より山形風のほうが好きです。

鈴木:あ、裏切り者(笑)。



将来の進路、今後の目標

根岸:将来の進路や今後の目標について教えてください。

大橋:学部生の時は行政が民間が悩んでいたのですが、今は民間志望です。僕はまちづくりがやりたいので、行政ではなく民間のディベロッパーが第一志望です。ワークショップでの活動が活かせるので、シンクタンクやコンサル志望の人も多いですね。

伊藤:僕は公務員志望で現在は農林水産政策に興味があります。ワークショップの川野先生が農林水産省からの出向なので、いろいろとお話を伺ったり、資料を教えてくださいたいと思っています。

根岸:中央省庁からの実務家教員も多いので、公務員志望のかたには非常にいい環境が整っていますよね。

伊藤:公務員だけだと、落ちた時に公共初の無職誕生になってしまうので(笑)、ワークショップの課題解決能力や課題発見能力を活かせるシンクタンクなどの仕事も見ています。

岡島:私は大橋さんとは逆で、学部時代にコンサルから内定をいただいていたのですが、やりたいことがちょっと違うと感じて公共に来ました。今は公務員志望で厚生労働政策に関心があります。

島田:公共に来る人は公務員志望が多いのかと思っていましたが、民間志望も結構多いですね。私も公務員か、民間のシンクタンクやコンサルティングファームを志望しています。

根岸:皆さん、就職したいところを通して、将来やりたいことは。

鈴木:実現したい社会、みたいな。

根岸:そんなかついい言い方(笑)。

岡島:労働政策がやりたいです。最近ですと物流における2025年問題がありますが、将来的には中小企業の労働などの問題に携わりたいですね。

伊藤:うちは農家ではありませんが、僕自身食べることがとても好きで、学部時代に農業を支援している学校にインターンに行きました。やはり日本の農業や食の質はとても高いと感じ、影響力のある国の立場から、食や農業を支援したり守っていける仕事をしたと考えています。

島田:地元が地方なので、人口減少や少子高齢化が身近な問題です。地方を活性化したいという想いと、学部時代に留学経験があるので、国際的に活躍できる人間になりたいと考えています。

大橋:まちづくりに最初に興味を持ったのは、生まれ育った仙台をもっと暮らしやすい街にしたいと思ったことがきっかけでした。ディベロPPERはどちらかというと東京都内の開発になるかと思いますが、最終的に何らかの形で仙台のまちづくりに貢献していけたらと考えています。

根岸:いずれは自分の地元で寄与したいという方も、公共には非常に多いですね。志のある仲間からいい刺激を受けられるという意味でも、公共はいい環境だと思います。



根岸:入試対策のアドバイスはありますか？

岡島:ホームページの「入試情報」に過去問が掲載されているので、時間を測ってやりました。また時事的な出題が多いと思い、ニュースには丁寧に目を通すようにしていました。

島田:公務員試験の論文対策のテキストを購入して練習したり、自分が

興味のある政策課題について調べて、それをきちんと説明できるようにしました。面接が1時間くらいあるので、そこは大変ですが頑張ってください。

大橋:僕は内部進学者特別選抜だったので面接だけでしたが、面接対策は比重を重めにしたほうがいいですね。予想質問を作ったり、興味のある政策分野を最低でもひとつは持ったほうがいいと思います。その分野について自分はどう考えるかという意見を持つこと。その意見が当たっているかどうかは別として、意見を持って説明できることが大事なのかなと感じました。

伊藤:僕は結構ガチガチに対策しました。7年分の過去問を全部見て、自分が興味のあるものは全部調べて、関係する白書を読んで、模範解答を作って暗記しました(笑)。

一同:すごい！

今後志望される方へ

根岸:東北大学公共政策大学院を志望される方にメッセージをお願いします。

大橋:学部時代には味わえなかった達成感と、忙しいけれど充実した毎日が送れます。一つひとつの課題をこなすうちに、気が付けばそれが血や肉や骨になっていると実感しているので、就職した同世代とはまた別のところで成長できているし、ここに来て良かったと感じています。この2ヶ月ですでに意味のある2年間になりそうだと感じているので、ぜひ、悩んでいるなら来ちゃったらいいいんじゃないかな、みたいな(笑)。

伊藤:ほぼ全員が社会課題に興味を持ち、公共性のある仕事をやりたいと考えているので、そういった環境に身を置いて学べることは刺激になると思います。

島田:学生も先生も、真面目な議論もできるし、楽しい時はみんなで和気あいあいとできる、そういうとても濃い、いい人間関係を作れます。先生方との距離も近く、刺激を受けながら学べるので、ここに来て絶対に後悔はしないと思います。

岡島:学部生の時は受け身の授業が多いと思いますが、ここでは発言を求められる授業が多いので、思考力や発言力が身に付き、それは社会に出てからも役に立つと思います。

鈴木:自分の選択を褒められた気がして、改めて公共に入って良かったと思っちゃいました。最近は公務員では稼げない、なぜそんなブラックなところに行くの?といったムードがある中で、それでも公共性のあることをやりたい仲間たちに囲まれているので、私もそこに向かって頑張ろうと思っています。学部時代の前半はコロナで対面の授業が少なかったため、ここではその時味わえなかったキャンパスライフを満喫しており、自分の勉強も、チームとして何かを作り上げることも楽しめる大学院だと思います。

根岸:みんな何かひとつスペシャルなことを持っていて、そのことについていくらでも語る人が多いですね。先日も呑みながら夜中の2時まで、友人と彼の専門について語り合いました。ここにいれば30人分のスペシャルな話を聞くことができる、非常にいい環境だと思っています。ぜひ、その仲間に加わっていただきたいと思っています。本日はありがとうございました。

2025年度の 入学者の内訳

■ 学部卒業後入学 23名

■ 民間企業職員 3名

■ 公務員 6名

合計32名

さまざまなフィールドで活躍する修了生

ここにしかない学びと出会い

国家公務員

森川 門音 千葉県庁総務部市町村課(総務省より出向)
(2023年度修了) 広島県出身、京都大学法学部卒業

行政や公共政策に関心を抱きつつも進路に悩んでいた私は、実社会で課題解決に取り組む方々へのヒアリングの機会、そして東北地方という研究フィールドに惹かれ、本大学院への進学を決めました。

公共政策ワークショップでは、困難を感じる場面も多々ありました。「何が分からないのかが分からない」状態からのスタート。バックグラウンドの異なる学生と認識や方向性を擦り合わせながら、現場の声を手がかりに複雑に絡み合った社会課題を紐解いていかなければなりません。政策に関する知識のみならず、調整力、交渉力、決断力など、総合的な力が問われます。自分がいかに社会や他者と真剣



に向き合えていなかったかを痛感する日々でした。

しかし、チームならではの多角的な視点から政策を検討し提言を作り上げていく過程はとても刺激的で、また視野を広げてくれました。何より、切磋琢磨し合った学友、先生方、ヒアリング先の方々との出会いが、かけがえのない人生の糧になりました。

私は現在、国から県庁に出向し、市町村の行政運営を支援する仕事をしています。テーマこそ異なりますが、求められる力の本質はワークショップと同じです。日々の業務の様々な場面で、本大学院での学びが活きていると実感しています。

自分を大きく成長させてくれた2年間

国家公務員

加賀谷 巧 農林水産省農村振興局総務課
(2024年度修了) 秋田県出身、東北大学文学部卒業

公務員として将来活躍することを見据えたときに、実際の政策立案に資する様々な能力や、政策に関する知識を修得することができるカリキュラムが展開されている本大学院で学びを深めたいと考え、入学を決めました。

ワークショップIでは、地域活性化を図るための農林水産政策の立案に取り組みました。それまでも、全国各地では農林水産業を通じた地域活性化の在り方が様々な模索されてきた中で、どのような方法であれば、より多くの地域を活性化させることができるのかということを考えるのは、困難を伴う作業でもありました。しかし、グループの



仲間と多くの時間をかけて考え抜いた経験は、非常に貴重なものであったと感じています。

それまで私は、自分の意見を述べたり、積極的に周りを巻き込んだりしながら行動することが必ずしも得意ではありませんでしたが、ワークショップなどでの経験を通して、これらの力が身についたと感じています。本大学院は、様々なバックボーンを持った皆さんのチャレンジを強く後押ししてくれます。公共政策の分野に少しでも関心がありましたら、本大学院への進学をぜひ検討してみてください!

さまざまなフィールドで活躍する修了生

「社会」と「自分」を学べるSENDAI

国家公務員

山本 響生 環境省環境再生・資源循環局総務課
(2024年度修了) 愛知県出身、筑波大学人文・文化学群卒業

私は、コロナ禍に筋トレに熱中し過ぎて就職を忘れてしまったため、とりあえず社会について学ぼうと泣きながら本学の門を叩きました。

今振り返ると、「社会」と「自分」を学んだ2年間でした。本学では、社会課題と現状の対策、今後検討するべきことを徹底的に学びます。また、ワークショップでは、自治体職員、企業、地域の方と交流し、仲間と研究をする中で、社会は様々な人の様々な活動によって成立していることを実感します。

また、「社会」を学ぶことで、「自分」についても学べます。入学前には、まさか筋トレと同じくらい公害対策や

生物多様性の保全、循環型社会の形成等に興味があるとは思いませんでした。

また、研究だけでなく、休日にも充実するのが本学が位置する仙台市の良いところです。物価も安く、飲み屋の多い良い街です。休日は、友人と遊んでリフレッシュするのも良いでしょう。(私は、駅周辺のゲームセンターを全制覇して遊んでいました。)

どんなきっかけでも構いません。夢がある人も、そうでない人も、ぜひ本学で学んでみませんか。



仙台発、越境するまなび

国家公務員

横田 楓 厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課
(2024年度修了) 東京都出身、広島大学法学部卒業

私は現在、医薬品・医療機器分野の産業振興、国際競争力向上に取り組む部署に所属しています。学部時代は行政法を専攻し、国際分野とは無縁でしたが、本学に入学後は、自らの専門性を活かしながら、新たな分野にも挑戦し、知見を広げる激動の2年間となりました。

国際ワークショップにて、資源循環体制を学ぶために訪れたベトナムでは、廃棄物管理の実態や日本との政策の違いを目の当たりにしたほか、日本と各国は日々影響を与え合っていることを肌で感じました。各国への理解を深めながら国内の地域課題にも向き

合うことで、視座が広がり、ものの捉え方が大きく変わった経験は、現在の業務にも活かしています。

さらに、問題をどの観点から見るか、より良い方向へどう導くかといった問いを、異なる考えを持った仲間と繰り返す中で、社会に出るための基礎力や臨機応変な対応力も自然と身に付きました。

これらは、分野を問わず広く社会に貢献するための礎となるものです。地方と都市が交差する仙台、そして国際的な現場で実践を通じて政策を学べる経験は、将来どの分野を志す方にとっても大きな糧となるはずです！



就職・進路関係

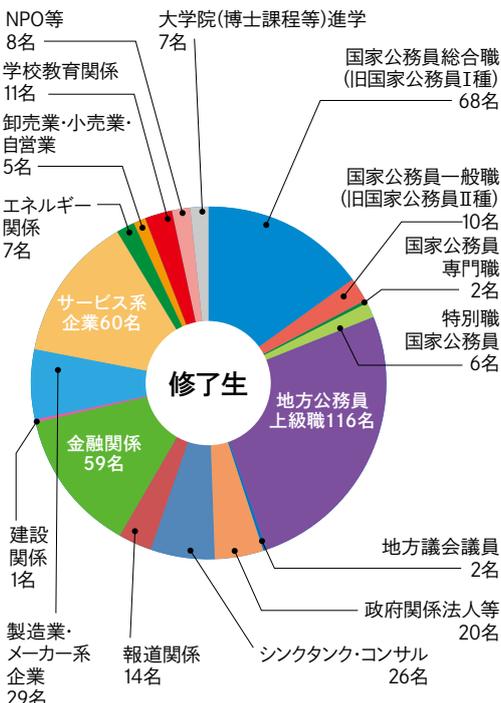
東北大学公共政策大学院で学ぶことによって、どのような将来が拓かれるでしょうか。

政策プロフェッショナルを目指す人	進路の幅を広げたい人	社会人として一段階上を目指す人
<p>現在</p> <p>国家・地方・国際公務員を志望している。 既に公務員試験に合格している人も</p>	<p>現在</p> <p>学部で学んでいる内容だけでは自分の希望する将来の道が見えて来ないと感じている。</p>	<p>現在</p> <p>中央・地方官庁などの職員、地方議会議員等として働きながら“政策プロフェッショナル”としての知識・技法を身につけたいと考えている。</p>
<p>東北大学公共政策大学院(原則2年で修了)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ワークショップで実務体験型学習 ●公共政策の最先端理論の体系的学習 ●政策プロフェッショナルに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーションなどの技法の修得 ●実務家教員による公務員志望者に対する指導 	<p>東北大学公共政策大学院(原則2年で修了)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ワークショップの実務訓練を通して自分の進むべき道を固める ●自分の進路に必要な基礎から最先端までの理論の学習 ●政策プロフェッショナルや企業マネージメントに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーション等の技法の修得 ●指導教員によるきめ細かな進路指導 	<p>東北大学公共政策大学院 (1年もしくは2年で修了、長期履修(上限4年)で修了)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ワークショップを通じてこれまでの実務体験を見つめ直す ●公共政策の最先端理論の集中的・体系的学習 ●政策プロフェッショナルに必要な最先端技法の修得 ●指導教員による個人指導の下でリサーチ・ペーパー作成
<p>将来</p> <p>◆ 国家・地方・国際公務員</p>	<p>将来</p> <p>◆ 国家・地方・国際公務員 ◆ NPO・シンクタンクの政策スタッフ ◆ ジャーナリスト ◆ 民間企業のマネージメント ◆ 博士課程に進学</p>	<p>将来</p> <p>◆ 元の職場に復帰してキャリア・アップ ◆ 別の職へ飛躍</p>
<p>在学中に公務員試験合格</p>	<p>在学中に公務員試験、民間企業の就職試験などに合格</p>	

修了生の就職先・進路としては、中央省庁・地方自治体等の幹部候補生、国際公務員のほか、ジャーナリストやシンクタンクのスタッフ等を念頭に置いています。

ワークショップ等を通じて獲得されるであろう、課題発見に始まり情報収集、解決策の作成検討に至る政策の企画立案に関する様々な能力は、社会人として実務に携わっていく上でまさに有用なものであり、多くの官公庁・企業等において高く評価されるものと考えています。

修了生の主な進路先



- 国家公務員総合職(旧国家公務員I種) … 人事院、内閣府、公正取引委員会、総務省、財務省、国税庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省、防衛省、会計検査院、経済産業省、金融庁、警察庁、裁判所、衆議院法制局
- 国家公務員一般職(旧国家公務員II種) … 金融庁、公安調査庁、財務省、国土交通省、入国管理局、関東管区行政評価局、東京家庭裁判所等
- 国家公務員専門職 … 外務省、関東財務局
- 特別職国家公務員 … 参議院事務局、陸上自衛隊幹部候補生、航空自衛隊幹部候補生
- 地方公務員上級職 … 東京都庁、北海道庁、岩手県庁、宮城県庁、秋田県庁、山形県庁、福島県庁、茨城県庁、栃木県庁、神奈川県庁、群馬県庁、山梨県庁、愛知県庁、兵庫県庁、沖縄県庁、札幌市役所、仙台市役所、横浜市役所、長野市役所、名古屋市役所、大阪市役所、北九州市役所等
- 地方議会議員 … 仙台市議会
- 政府関係法人等 … 日本銀行、JETRO、国際協力機構、農林中央金庫、福祉医療機構等
- シンクタンク・コンサル … 日本総研、野村総研、富士通総研、三菱総研、トーマツ等
- 報道関係 … 読売新聞社、朝日新聞社、日本経済新聞社、共同通信社、河北新報社、日本放送協会等
- 金融関係 … 日本政策金融公庫、日本政策投資銀行、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、日本生命、ソニー生命、明治安田生命、全国共済農業協同組合連合会、野村證券、日本銀行、日本貿易保険等
- 建設関係 … 東日本高速道路
- 製造業・メーカー系企業 … 三菱重工業、JFEスチール、三菱ケミカル、三井化学、東芝、日立製作所、三井金属鉱業、日本新薬、日本製鉄、三菱マテリアル、パナソニック等
- サービス系企業関係 … 日本IBM、JR西日本、NTTデータ、ベネッセコーポレーション、ヤマト運輸、JTB、楽天グループ、デジタルアーツ、コンサルティング、双日、NTT東日本、マークラインズ、全日本空輸、日本M&Aセンター、日本アーツ、日本郵船等
- エネルギー関係 … 東北電力、北陸電力、静岡ガス等
- 卸売業・小売業 … 豊通食料等
- 学校教育関係 … 学校法人昌平学園、宮城教育大学、東北大学、東洋大学、国立青少年教育振興機構、榎山高校
- NPO等 … 仙台ひと・まち交流財団等
- 大学院(博士課程等)進学 … 東北大学大学院(法学研究科、医学系研究科、情報科学研究科)、東京都立大学大学院

※なお、上記の中には、在学中に就職した者や、社会人として入学し、修了後に復職した者もいます。

勉強、研究をサポートする充実した施設

1 ワークショップ室

各ワークショップごとに、調査研究を進めるためのワークショップ室が与えられています。

所属メンバーは、ワークショップ室にいつでも集まり、議論し、資料を作成し、文献を研究することができます。



2 自習室

エクステンション教育研究棟内に自習室があり、学生は1人に一つの勉強用の机が与えられています。自習室は24時間利用可能です。



3 学生寄宿舍

留学生との共同生活を行うユニバーシティ・ハウス(写真)をはじめとした各種学生寄宿舍を、低額で利用することができます。



奨学金その他の各種支援制度



1 入学料・授業料免除

経済的理由により入学料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業が優秀であると認められる方等については、選考の上、入学料の全額又は半額の免除が許可される制度があります。

また、経済的理由により授業料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業成績が優秀であると認められる方等については、選考の上、授業料の全額、3分の2の額、半額、3分の1の額、又は4分の1の額の免除が許可される制度があります。

これらのほか、入学料や授業料の徴収猶予の制度があります。

2 奨学金

当大学院の学生は、日本学生支援機構奨学金として、第1種奨学金(無利子)、第2種奨学金(有利子)を申請することができます。そのほか、各種奨学金(地方公共・民間奨学団体等)があります。

3 TA制度

一般入試において実施される小論文および口述試験の双方で特に優秀な評価を受けた入学者やそれに準ずる者には、1学年間、TA(ティーチングアシスタント)として、東北大学公共政策大学院における教育活動補助等に従事することで、一定の給与を支給される制度があります(年額80万円の予定)。

在学生
から

実践で磨く政策力

宮城県出身
津田塾大学総合政策学部卒業 津田 京香 (2024年度入学)

実務と座学の両面から政策について学びたいと思い、本学を志望しました。ワークショップでは、自ら課題を発見し、解決策を検討、ヒアリング等の実践的な活動に取り組むことで、社会に出る前に調整力や自信を養えたと感じています。また、ワークショップ以外にも教員や学生との交流の機会が多く、互いに深く関われる点も大きな魅力です。さらに、TA制度による経済的支援のおかげで安心して学業に専念でき、充実した学生生活を送ることができています。



入試関係情報

1 アドミッション・ポリシー

東北大学公共政策大学院が受け入れる学生像とは、「公共政策ワークショップ」をはじめとするカリキュラムによって、他の学生と切磋琢磨しながら自己の能力を一層涵養することのできる人物であり、具体的には以下の資質を持つ人物です。

- 学部で学んだ専門知識を基盤としつつ、公務及び公共政策の立案・制度設計について多角的な視点から学習する意欲と基礎的な能力を有すること。
- 討論・交渉・文章作成・プレゼンテーションなどコミュニケーション能力を豊かに持ち、集団作業に貢献できる適性を有すること。
- 公共性への情熱を持ち、公務に対し献身的な資質を有すること。

したがって入学試験では、特定の行政課題に関する基本的な理解とそれに基づき考察する能力を有していることを考査するとともに、「公共政策ワークショップ」において集団作業に積極的に参加する人物であることを面接で審査します。これによって、特定の学部の卒業生に偏ることなく、様々な学部の卒業生や社会人経験を持つ者から多様な学生の受け入れを進めます。

外国人留学生が本学の教育プログラムに参加するには日本語能力試験N1で150点相当の日本語能力と日本の国内行政に関する大卒レベルの知識が求められます。

2 入学試験の概要

入学試験は、第1期募集、第2期募集、政策法務教育コース募集、内部進学者特別選抜の4回に分けて行われます。

※政策法務教育コースは、公共政策全般に関する実務に3年以上携わった方（例えば、地方議会議員や行政機関の職務経験者、社団法人・財団法人やNPO等において公共性の高い業務を経験された方）を対象としたものです。

※内部進学者特別選抜は、国家公務員をはじめとした公共性の高い職業を志す東北大学の優秀な在学学生を対象としたものです。

第1期募集及び第2期募集の入学試験は、提出書類、小論文及び口述試験の総合判定により行います。政策法務教育コースの入学試験は、提出書類（スタディ・プラン等）及び口述試験の総合判定により行います。内部進学者特別選抜は、提出書類（出願書身上書等）及び口述試験の総合判定により行います。

● 小論文

小論文の問題は、現在の日本が直面している政策課題について受験生の理解度と見解を問うものとなります。受験生は、内政、経済、国際関係の3分野から出される問題のうち一つを選択して小論文を作成します。過去の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されておりますので、事前チェックをお勧めします。

過去の小論文の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイト参照して下さい。



<https://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/admission/#kakomon>

● 口述試験

口述試験は、受験生の公共政策全般に対する姿勢、コミュニケーション能力、モチベーション等を総合的に判定するために行われます。

3 本年度の入学試験の日程・場所・出願方法

詳細は、各募集ごとの「令和8(2026)年度東北大学公共政策大学院学生募集要項」をご覧ください。

	内部進学者特別選抜	第1期募集	政策法務教育コース	第2期募集
募集定員	合計30名			
募集要項・出願書類の配布	7月上旬	7月上旬	9月上旬	11月下旬
出願受付	令和7年7月25日(金)～7月31日(木)	令和7年9月5日(金)～9月11日(木)	令和7年10月17日(金)～10月23日(木)	令和7年12月15日(月)～12月19日(金)
入学試験(口述試験)	令和7年8月30日(土)	令和7年9月27日(土)、9月28日(日)	令和7年11月15日(土)	令和8年1月17日(土)
合格者発表	令和7年9月5日(金)	令和7年10月3日(金)	令和7年11月21日(金)	令和8年1月23日(金)

- 募集要項及び出願書類(本研究科所定様式)は東北大学公共政策大学院ウェブサイトからダウンロードしてください。
- 入学試験は東北大学片平キャンパスまたはオンラインで実施します。
- 入試情報は、随時、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されますので、ご参照ください。

入試情報は東北大学公共政策大学院のウェブサイト参照して下さい。



<https://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/admission/>

入 試 説 明 会

6月	6/28 (土)
7月	7/3 (木)・ 23 (水)
8月	8/2 (土)・ 8/30 (土)
12月	12/6 (土)

ワークショップI 中間報告会見学会

7/23 (水)・
7/24 (木)

政策法務教育コース 「社会人向け進学相談会」

10/3 (金)・
10/4 (土)

※上記の日程にて、本大学院を知っていただくため、教員等による説明会を開催します。

開催時間等の詳細は、東北大学公共政策大学院
ウェブサイトでご確認ください。
<https://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/>



■ アクセスマップ



- 東京駅から仙台駅まで約90分
- JR仙台駅より徒歩15分
- 仙台市営地下鉄東西線青葉通一番町駅より徒歩7分

■ 片平キャンパス



東北大学公共政策大学院

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学法学部・法学研究科専門職大学院係
TEL. 022-217-4945
E-mail law-pro@grp.tohoku.ac.jp
<https://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/>



このパンフレットは環境に配慮した「水なし印刷」により印刷しております。



環境にやさしい植物油インキ「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。